

I C T を活用した個別最適な学びと協働的な学びの推進上の諸課題
—全ての生徒たちの可能性を引き出す魅力ある商業教育の実現に向けて—

令和4年5月

全国商業高等学校長協会

目 次

| | |
|---|----|
| はじめに | 1 |
| [I] 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 | |
| 1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の認識について | |
| 問1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の認識が、教員にどのくらい浸透しているかについて..... | 2 |
| 2 「個別最適な学び」(指導の個別化)について | |
| 問2 授業観察などを通じて「個別最適な学び」の指導を、どのくらいの教員が行っているかについて..... | 2 |
| 問3 「個別最適な学び」の成果を上げるためのポイントについて..... | 3 |
| 問4 「個別最適な学び」の効果が最も発揮される場面について..... | 3 |
| 問5 「個別最適な学び」の充実を図るための対応について..... | 4 |
| 問6 「個別最適な学び」に取り組む上での課題について..... | 5 |
| 問7 学習者主体の学びに変わることによる教員の役割(姿)の変化について..... | 6 |
| 3 「個別最適な学び」(学習の個性化)について | |
| 問8 「個別最適な学び」の実施状況等について..... | 6 |
| 問9 生徒が自らの学習状況を把握し、主体的に学習を調整できるように行っている取組について..... | 7 |
| 問10 生徒のつまずきや悩みの状況を把握する役割は、校内でどこ(誰)が担っているかについて..... | 8 |
| 4 「協働的な学び」について | |
| 問11 授業観察などを通じて「協働的な学び」の指導を行っている教員について..... | 8 |
| 問12 「協働的な学び」の取組状況等について..... | 9 |
| 問13 「協働的な学び」の対象者(相手方)の重要度について..... | 10 |
| 問14 「協働的な学び」を進めるうえで、連携している外部団体・組織について..... | 12 |
| 問15 授業以外で、「協働的な学び」を進めていることについて..... | 12 |
| 問16 「協働的な学び」によって、どのようなことが身に付くかについて..... | 13 |
| 問17 「協働的な学び」に取り組む上での課題について..... | 13 |
| 5 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の効果的な組み合わせについて | |
| 問18 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けての取組状況等について..... | 14 |
| 問19 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業づくりに必要なものについて..... | 15 |
| 問20 「協働的な学び」を実施する効果的なタイミングについて..... | 15 |
| 問21 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けての課題について..... | 16 |

| | | |
|-----|--|----|
| 6 | 学習評価の確立に向けた取組について | |
| 問22 | 新学習指導要領の3観点による学習評価の進捗状況について | 16 |
| 問23 | 3観点による学習評価の方法として考えているものについて | 17 |
| 7 | 新時代に対応した高等学校教育等の在り方について | |
| 問24 | 教科等横断的な学びの取り入れについて | 18 |
| 問25 | 「実施科目」「内容」について | 19 |
| 問26 | 「スクール・ミッション」の進捗状況について | 23 |
| 問27 | 3つの「スクール・ポリシー」の進捗状況について | 23 |
| 問28 | 各学校や地域の実情に応じた関係機関との連携・協働をコーディネートする体制について | 24 |
| [Ⅱ] | オンラインを活用した教育活動について | |
| 1 | I C T環境の整備状況について | |
| 問29 | 導入しているI C T機器について(今後の導入計画も含む。) | 24 |
| 問30 | 生徒が校内で使用できるW i - F iの環境について | 26 |
| 2 | I C Tを活用した授業について | |
| 問31 | I C Tの活用した授業を行うメリットについて | 26 |
| 問32 | I C Tを活用した教育を推進するための課題について | 27 |
| 3 | オンラインを活用した授業について(リモート授業を除く) | |
| 問33 | オンラインを活用した授業や交流の頻度について(対面授業での使用も含む) | 28 |
| 問34 | オンラインを活用した授業等の実施上の課題について | 28 |
| 4 | リモート授業の実施について | |
| 問35 | リモート授業について | 29 |
| [Ⅲ] | I C T活用に向けた教師の資質・能力の向上について | |
| 問36 | I C T活用の推進が教員に共有されているかについて | 30 |
| 問37 | I C T機器の活用状況・活用能力について、概ねすべての教員が行っているものについて | 30 |
| 問38 | I C Tを活用した授業(リモート授業を除く)について | 31 |
| 問39 | リモート授業の実施について | 32 |
| 問40 | 各種の教員研修において、必要な資質・能力が育成できるかについて | 33 |
| | おわりに | 34 |
| | 資料 本部提案テーマ年度別一覧 | 35 |

はじめに

商業教育対策委員会では、毎年、新しい魅力ある商業教育の実現を図るために、全国の学校が抱える様々な課題に関するテーマを設定し、本部提案を行っています。

令和4年度春季研究協議会に向けまして、前年度テーマとの継続性を考慮し「ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの推進上—全ての生徒たちの可能性を引き出す魅力ある商業教育の実現に向けて—」をテーマといたしました。

これは、令和3年1月の中央教育審議会答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して—全ての生徒たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現—において、ICTを最大限活用しながら、これまで以上に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることの重要性が示されたことを受けて決定したものです。

現在、各学校においては、新学習指導要領の着実な実施に取り組んでおりますが、コロナ禍を経験した我々は、ICTを最大限活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実していくことが重要な課題となっています。特に、感染防止と学びの保障が同時に求められる中、学校のICT環境の整備が急速に進み、学校教育の質の向上に向けたICTの活用やICTの活用に向けた教師の資質・能力の向上も大きな課題として浮かび上がってまいりました。

令和4年度の本部提案は、このようなことを踏まえ、ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」を推進する上での課題を整理し、その解決に向けた対応策について情報を共有することにより、『令和の日本型学校教育』の趣旨を生かし、生徒の可能性を引き出す魅力ある商業教育の実現に資することを目指すものであります。

以上の点から、令和3年10月に、次のようなアンケートを全国の商業関係高等学校を対象に実施させていただきました。アンケートにご協力いただきました学校には、心からお礼申し上げます。

[アンケートの構成]

[Ⅰ] 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

- 1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の認識について
- 2 「個別最適な学び」(指導の個別化)について
- 3 「個別最適な学び」(学習の個性化)について
- 4 「協働的な学び」について
- 5 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の効果的な組み合わせについて
- 6 学習評価の確立に向けた取り組みについて
- 7 新時代に対応した高等学校教育等の在り方について

[Ⅱ] オンラインを活用した教育活動について

- 1 ICT環境の整備状況について
- 2 ICTを活用した授業について
- 3 オンラインを活用した授業について(リモート授業を除く)
- 4 リモート授業の実施について

[Ⅲ] ICT活用に向けた教師の資質・能力の向上について

この度、そのアンケートの分析及び考察が終了いたしましたので、本冊子にまとめ報告させていただきますと存じます。多くの学校がこの冊子を有効に活用していただき、今後の商業教育の充実・発展につなげてほしいと強く願い、結びといたします。

I C Tを活用した個別最適な学びと協働的な学びの推進上の諸課題について、令和3年度全商協会会員校のうち、商業に関する学科を設置する全日制高等学校でアンケートを実施した。本アンケートは、各都道府県2校に対して実施したが、北海道、埼玉県、愛知県、兵庫県、岡山県、福岡県は、3校実施し、100校から回答を得た。

アンケートは、[Ⅰ]「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実(問1～問28)、[Ⅱ]オンラインを活用した教育活動について(問29～問35)、[Ⅲ] I C T活用に向けた教師の資質・能力の向上について(問36～問40)で構成されている。

[Ⅰ] 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の認識について

問1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の認識が、教員にどのくらい浸透していますか。

| | |
|--------------|----|
| ア 浸透している | 7 |
| イ ある程度浸透している | 69 |
| ウ あまり浸透していない | 24 |
| エ 全く浸透していない | 0 |

<考 察>

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の認識は、多い順に「イ ある程度浸透している」69校、「ウ あまり浸透していない」24校、「ア 浸透している」7校であった。

「ア 浸透している」と「イ ある程度浸透している」を合計すると76校となり、かなりの割合で浸透してきていることが分かる。

2 「個別最適な学び」(指導の個別化)について

問2 授業観察などを通じて「個別最適な学び」の指導を、どのくらいの教員が行っていますか。

| | |
|-------------|----|
| ア ほぼ全ての教員 | 13 |
| イ 2/3くらいの教員 | 25 |
| ウ 半分くらいの教員 | 31 |
| エ 1/3くらいの教員 | 28 |
| オ ほとんどいない | 3 |

<考 察>

授業観察などを通じて「個別最適な学び」の指導状況は、多い順に「ウ 半分くらいの教員」31校、「エ 1/3くらいの教員」28校、「イ 2/3くらいの教員」25校、「ア ほぼ全ての教員」13校であり、「個別最適な学び」の指導を多くの教員が取り組んでいることが分かる。

問3 「個別最適な学び」の成果を上げるためのポイントは、何ですか。(複数選択可)

| | |
|--------------------------------------|----|
| ア 指導の個別化前の一斉学習 | 59 |
| イ 教材の提示 | 75 |
| ウ 教具(ICT機器含)の選定 | 60 |
| エ 学習場所 | 20 |
| オ 学習時間 | 21 |
| カ その他 | 8 |
| 生徒それぞれが自身の学習方法(この個別学習での)を確立させること(福島) | |
| 教員の人数(埼玉) | |
| 教員自身が新たな教育メソッドを身につけること(東京) | |
| 生徒一人ひとりの習熟度に応じた目標の設定と、その評価(福井) | |
| 授業計画、教材教具の選定など(三重) | |
| 指導者側の時間(京都) | |
| 反転学習による事前学習(鳥取) | |
| 教員のICT活用能力の向上とそれを実現させるための研修(山口) | |

<考 察>

「個別最適な学び」の成果を上げるためのポイントは、多い順に「イ 教材の提示」75校、「ウ 教具(ICT機器含)の選定」60校、「ア 指導の個別化前の一斉学習」59校であった。

問4 「個別最適な学び」の効果が最も発揮されるのは、どのような場面ですか。

| (1) 知識の分野 | |
|-------------|----|
| ア 知識を得る活動 | 16 |
| イ 知識が定着する活動 | 47 |
| ウ 知識を深める活動 | 37 |
| エ その他 | 0 |

| (2) 技能の分野 | |
|----------------|----|
| ア 基礎・基本を習得する活動 | 22 |
| イ 技能が定着する活動 | 45 |
| ウ 技能を修練する活動 | 33 |
| エ その他 | 0 |

<考 察>

「個別最適な学び」の効果が最も発揮される場面については、(1) 知識の分野では、多い順に「イ 知識が定着する活動」47校、「ウ 知識を深める活動」37校、「ア 知識を得る活動」16校であった。(2) 技能の分野では、多い順に「イ 技能が定着する活動」45校、「ウ 技能を修練する活動」33校、「ア 基礎・基本を習得する活動」22校であった。

「個別最適な学び」の効果としては、知識や技能の定着を期待していることが分かる。

問5 「個別最適な学び」の充実を図るために、どのような対応をしていますか。(複数選択可)

| (1) 指導方法 | |
|-----------------------|----|
| ア アンケートや観察による意欲・関心の把握 | 53 |
| イ 単元テストによる学力の把握 | 66 |
| ウ ノートや成果物の提出・記述状況の確認 | 69 |
| エ 授業中の働きかけ | 64 |
| オ その他 | 2 |
| 個別面談(千葉) | |
| 学習ログの活用(宮崎) | |

| (2) 授業形態 | |
|------------------------------------|----|
| ア 少人数授業を行っている | 41 |
| イ 習熟度別授業を行っている | 49 |
| ウ 補習授業を行っている | 56 |
| エ 特別な形態では行っていない | 16 |
| オ その他 | 4 |
| ア、ウについては、一部の授業のみ(福島) | |
| 外国にルーツを持つ生徒に支援授業(取り出し授業)を行っている(愛知) | |
| 選択科目においては20人以下での授業を行っている。(大阪) | |
| ティームティーチング(鳥取) | |

| (3) 学習が遅れがちな生徒への支援 | |
|------------------------|----|
| ア 始業前の朝学習や放課後等の補習授業の実施 | 84 |
| イ プリント教材等課題の提供 | 66 |
| ウ ICT機器を活用した学習教材の活用 | 29 |
| エ 何も行っていない | 2 |
| オ その他 | 3 |
| 教員チームによる個別指導(鳥取) | |
| 学び合い(愛媛) | |
| 授業時間外での個別指導(熊本) | |

<考 察>

| |
|---|
| <p>「個別最適な学び」の充実を図るための対応については、(1) 指導方法では、多い順に「ウ ノートや成果物の提出・記述状況の確認」69校、「イ 単元テストによる学力の把握」66校、「エ 授業中の働きかけ」64校、「ア アンケートや観察による意欲・関心の把握」53校であり、「オ その他」として、個別面談、学習ログの活用などの回答があった。(2) 授業形態では、多い順に「ウ 補習授業を行っている」56校、「イ 習熟度別授業を行っている」49校、「ア 少人数授業を行っている」41校、「エ 特別な形態では行っていない」16校であり、「オ その他」として、取り出し授業、少人数授業などの回答があった。(3) 学習が遅れがちな生徒への支援では、多い順に「ア 始業前の朝学習や放課後等の補習授業の実施」84校、「イ プリント教材等課題の提供」66校、「ウ ICT機器を活用した学習教材の活用」29校、「エ 何も行っていない」2校であり、「オ その他」として、教員チームによる個別指導、時間外での個別指導、学び合いなどの回答があった。どの項目も複数回答が多く、さまざまな形で充実を図るための対応をしていることが分かる。</p> |
|---|

問6 「個別最適な学び」に取り組む上で、課題は何ですか。(複数選択可)

| | |
|------------------------|----|
| ア 生徒及び保護者とのコミュニケーション不足 | 16 |
| イ 適切な教材がない | 18 |
| ウ 一斉指導に比べ、手数がかかる | 86 |
| エ 指導する教員が不足 | 59 |
| オ 教員間の理解不足 | 19 |
| カ 評価が難しい | 46 |
| キ 個別指導を行う施設・機器の不足 | 21 |
| ク 課題はない | 0 |
| ケ その他 | 4 |
| 指導者側の時間(京都) | |

| |
|-------------------------------------|
| 取組にあたり、1, 2名の教員では限度がある。(兵庫) |
| 教員の学習コンテンツの開発力及び共有するかたちでの活用力の向上(山口) |
| 生徒理解(沖縄) |

<考 察>

「個別最適な学び」に取り組む上での課題については、多い順に「ウ 一斉指導に比べ、手数がかかる」86校、「エ 指導する教員が不足」59校、「カ 評価が難しい」46校、「キ 個別指導を行う施設・機器の不足」21校、「オ 教員間の理解不足」19校、「イ 適切な教材がない」18校、「ア 生徒及び保護者とのコミュニケーション不足」16校であった。
「ク 課題はない」0校という回答であり、各校とも何らかの課題があると推察できる。

問7 教員主導の一斉授業から学習者主体の学びに変わること、教員の役割(姿)はどのように変わりますか。

| | |
|-----------------------------------|----|
| ア これまでと変わらない | 3 |
| イ これまで以上に生徒一人一人の学びを見取り、個に応じた支援をする | 64 |
| ウ 主体的な学びを支援する伴走者となる | 33 |
| エ その他 | 0 |

<考 察>

教員主導の一斉授業から学習者主体の学びに変わることによる教員の役割の変化については、多い順に「イ これまで以上に生徒一人一人の学びを見取り、個に応じた支援をする」64校、「ウ 主体的な学びを支援する伴走者となる」33校、「ア これまでと変わらない」3校であった。
教員の役割としては、これまで以上にサポートに重点を置いていることが分かる。

3 「個別最適な学び」(学習の個性化)について

問8 「個別最適な学び」の実施状況等についてお答えください。

| (1) 貴校の生徒の視点から「個別最適な学び」の実施状況 | |
|------------------------------|----|
| ア よくできている | 0 |
| イ ある程度できている | 54 |
| ウ あまりできていない | 44 |
| エ 全くできていない | 0 |
| オ わからない | 2 |

| (2) 生徒の興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会の提供 | |
|--|----|
| ア よくできている | 1 |
| イ ある程度できている | 62 |
| ウ あまりできていない | 37 |
| エ 全くできていない | 0 |
| オ わからない | 0 |

<考 察>

「個別最適な学び」の実施状況等については、(1) 生徒視点からの「個別最適な学び」では、多い順に「イ ある程度できている」54校、「ウ あまりできていない」44校であった。(2) 生徒の興味・関心等に応じ一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会の提供では、多い順に「イ ある程度できている」62校、「ウ あまりできていない」37校であった。

どちらの項目も、「イ ある程度できている」が半数以上であるが、「個別最適な学び」の充実を図る取組が進められている一方、取組があまり進んでいない学校もある程度あることが分かる。

問9 生徒が自らの学習状況を把握し、主体的に学習を調整できるように促していくことが求められています。どのような取組をしていますか。(複数選択可)

| | |
|------------------------------|----|
| ア 自習室を設け、自学自習可能な環境整備 | 23 |
| イ 個別補習等の取り出し授業等の設定 | 53 |
| ウ アプリやグループウェア等の学習コンテンツの導入 | 40 |
| エ 学校設定教科等での配慮 | 14 |
| オ 学校で用意した課題の提供 | 59 |
| カ 行っていない | 2 |
| キ その他 | 1 |
| 自習室を休日に設けていたが、コロナ禍のため休止中(香川) | |

<考 察>

生徒が自らの学習状況を把握し主体的に学習を調整できるように促していく取組については、多い順に「オ 学校で用意した課題の提供」59校、「イ 個別補習等の取り出し授業等の設定」53校、「ウ アプリやグループウェア等の学習コンテンツの導入」40校であった。

「カ 行っていない」2校であり、各校がそれぞれの状況に応じて取り組んでいることが分かる。

問10 「個別最適な学び」が進められるように、生徒のつまずきや悩みの状況を把握する役割は、校内でどこ(誰)が担っていますか。(複数選択可)

| | |
|----------------|----|
| ア 担任 | 88 |
| イ 教科担当 | 91 |
| ウ 養護教諭 | 51 |
| エ 管理職 | 11 |
| オ 特定の分掌 | 18 |
| カ スクールカウンセラー | 43 |
| キ 特別支援コーディネーター | 27 |
| ク ケース会議 | 19 |
| ケ 決めていない | 2 |
| コ その他 | 0 |

<考 察>

生徒のつまずきや悩みを把握する役割を担うのは、多い順に「イ 教科担当」91校、「ア 担任」88校、「ウ 養護教諭」51校、「カ スクールカウンセラー」43校、「キ 特別支援コーディネーター」27校、「ク ケース会議」19校であった。
学校によっては「特定の分掌」や「管理職」が担っている場合もあり、さまざまな立場で生徒の心配事の把握に務めていることが分かる。

4 「協働的な学び」について

問11 授業観察などを通じて「協働的な学び」の指導を、どのくらいの教員が行っていると感じていますか。

| | |
|-------------|----|
| ア ほぼ全ての教員 | 18 |
| イ 2/3くらいの教員 | 36 |
| ウ 半分くらいの教員 | 33 |
| エ 1/3くらいの教員 | 13 |
| オ ほとんどいない | 0 |

<考 察>

授業観察などを通じて「協働的な学び」の指導状況は、「ア ほぼ全ての教員」18校、「イ 2/3くらいの教員」36校であり、5割以上の学校で多くの教員が取り組んでいるという結果であった。
その一方で、教員の半数以下の取組状況に留まる学校もあり、学校差や個人差が大きいのが現状である。

問12 「協働的な学び」の取組状況等についてお答えください。

| (1) 探究的学習や体験活動の実施状況 | |
|---------------------|----|
| ア よくできている | 11 |
| イ ある程度できている | 73 |
| ウ あまりできていない | 16 |
| エ 全くできていない | 0 |
| オ わからない | 0 |

| (2) 異なる考え方が組み合わさり、よりよい学びを生み出すことができるような学びの実施状況 | |
|---|----|
| ア よくできている | 4 |
| イ ある程度できている | 57 |
| ウ あまりできていない | 37 |
| エ 全くできていない | 1 |
| オ わからない | 1 |

| (3) 効果を高めるために実施している活動状況(複数選択可) | |
|--------------------------------------|----|
| ア 学級経営を充実させている | 40 |
| イ 生徒会活動を充実させている | 40 |
| ウ 学校行事を充実させている | 72 |
| エ 特に何もやっていない | 10 |
| オ その他 | 12 |
| 授業や部活動(北海道) | |
| 学校行事を充実させたいが、コロナ禍で難しい(東京) | |
| 文化祭での販売実習(新潟) | |
| すべての教科・科目で「協働的な学び」を意識した授業を考えている。(福井) | |
| 総合的な探究の時間の代替科目「課題研究」を充実させている(愛知) | |
| 地域連携活動(岐阜) | |
| 「課題研究」の内容を充実させる(三重) | |
| グループ学習やプレゼンテーションの機会(教科指導)(大阪) | |
| 販売実習(奈良) | |

| |
|------------------------------|
| 「課題研究」の中で実施(香川) |
| 授業や希望者に対して外部との連携を充実させている(香川) |
| 農業・商業科の授業の中で様々な体験学習を実施(徳島) |

| (4) 効果的な活用が期待できる重要度の高い学習設備(複数選択可) | |
|-----------------------------------|----|
| ア プロジェクタ・電子黒板等 | 83 |
| イ PC・タブレット端末等 | 92 |
| ウ 書画カメラ・デジタルカメラ等 | 32 |
| エ 普通教室では設備は特に必要としない | 2 |
| オ その他 | 2 |
| ボード、スクールタイマー(茨城) | |
| 無料のデジタルコンテンツを活用している。(兵庫) | |

<考 察>

| |
|---|
| <p>「協働的な学び」の取組状況等については、(1) 探究的活動や体験活動の実施状況では、「ア よくできている」11校、「イ ある程度できている」73校であり、8割以上の学校で実施できている。</p> <p>(2) 異なる考え方が組み合わさり、よりよい学びを生み出すことができるような学びの実施状況では、「ア よくできている」4校、「イ ある程度できている」57校であり、6割程度の学校の実施に留まっている。</p> <p>(3) 効果を高める活動状況では、多い順に「ウ 学校行事を充実させている」72校、「ア 学級経営を充実させている」と「イ 生徒会活動を充実させている」がそれぞれ40校であった。「オ その他」として「課題研究」をあげた学校が3校あった。</p> <p>(4) 効果的な活用ができる重要度の高い学習設備では、多い順に「イ PC・タブレット端末等」92校、「ア プロジェクタ・電子黒板等」83校、「ウ 書画カメラ・デジタルカメラ等」32校であり、ICT環境の整備が必要であることが分かる。</p> |
|---|

問13 現在している又は、しようとしている「協働的な学び」の対象者(相手方)についての重要度についてお答えください。

| (1) 同一学年・学級の生徒同士の学び合い | |
|-----------------------|----|
| ア 特に重視する | 23 |
| イ 重視する | 72 |
| ウ あまり重視しない | 5 |
| エ 重視しない | 0 |

| (2) 異学年間の学び合い | |
|---------------|----|
| ア 特に重視する | 4 |
| イ 重視する | 68 |
| ウ あまり重視しない | 27 |
| エ 重視しない | 1 |

| (3) 他の学校の生徒との学び合い | |
|-------------------|----|
| ア 特に重視する | 5 |
| イ 重視する | 53 |
| ウ あまり重視しない | 39 |
| エ 重視しない | 3 |

| (4) 大学・専門学校等との学び合い | |
|--------------------|----|
| ア 特に重視する | 15 |
| イ 重視する | 62 |
| ウ あまり重視しない | 21 |
| エ 重視しない | 2 |

| (5) 地域の方々や多様な専門家との協働 | |
|----------------------|----|
| ア 特に重視する | 41 |
| イ 重視する | 56 |
| ウ あまり重視しない | 2 |
| エ 重視しない | 1 |

<考 察>

「協働的な学び」の対象者の重要度については、「(1) 同一学年・学級の生徒同士」、「(2) 異学年間」、「(4) 大学・専門学校等」、「(5) 地域の方々や多様な専門家」のいずれにおいても、ほとんどの学校が対象者として重視していることが分かる。

一方、「(3) 他の学校の生徒との学び合い」は、他と比べて消極的な傾向にあることが分かる。

問14 「協働的な学び」を進める上で、連携している外部団体・組織は何ですか。(複数選択可)

| | |
|---------------------|----|
| ア 地域 | 81 |
| イ 企業 | 78 |
| ウ 大学・専門学校 | 73 |
| エ 連携していない | 3 |
| オ その他 | 1 |
| 明石市役所(行政)の様々な部局(兵庫) | |

<考 察>

「協働的な学び」を進める上で連携している外部団体・組織については、「ア 地域」81校、「イ 企業」78校、「ウ 大学・専門学校」73校であった。
多くの学校が「協働的な学び」を進める上で、複数の外部団体・組織と連携していることが分かる。

問15 授業以外で、「協働的な学び」を進めていることは何ですか。(複数選択可)

| | |
|-----------------------------------|----|
| ア 学校行事 | 68 |
| イ 各種コンテスト等 | 41 |
| ウ 各種競技会等 | 40 |
| エ 地域の行事・イベント等 | 76 |
| オ 特になし | 4 |
| カ その他 | 2 |
| 文部科学省事業指定校(三重) | |
| ひょうごスーパーハイスクール指定校の取組として進めている。(兵庫) | |

<考 察>

授業以外で「協働的な学び」を進めていることは、多い順に「エ 地域の行事・イベント等」76校、「ア 学校行事」68校、「イ 各種コンテスト等」41校、「ウ 各種競技会等」40校であった。
また、国や県の指定校事業を通して、「協働的な学び」を進めている学校もあった。
「地域の行事・イベント等」、「各種コンテスト等」、「各種競技会等」が「協働的な学び」を進める上で活用されていることは、商業教育の特徴と言える。

問16 「協働的な学び」によって、どのようなことが身に付くと考えますか。(複数選択可)

| | |
|------------------------------------|----|
| ア 他者を価値のある存在として尊重する心 | 70 |
| イ 自分のよさや可能性を認識する心 | 47 |
| ウ コミュニケーション能力 | 95 |
| エ 主体性や協調性 | 92 |
| オ 責任感 | 45 |
| カ その他 | 2 |
| 他者の考えを求める思考(鳥取) | |
| 郷土愛を育む心や将来の職業人として地域貢献に対する意欲の向上(山口) | |

<考 察>

「協働的な学び」によって身に付くことは、「ウ コミュニケーション能力」95校、「エ 主体性や協調性」92校と、他に比べて高い数値を示しており、大きな二つの柱となった。
他にも「ア 他者を価値のある存在として尊重する心」70校であり、「協働的な学び」を通して他者とのつながりが育成されていくことが分かる。

問17 「協働的な学び」に取り組む上で、課題は何ですか。(複数選択可)

| | |
|--------------------------------------|----|
| ア 教員の指導力 | 91 |
| イ ICT環境の整備 | 26 |
| ウ クラス内での人間関係の構築 | 40 |
| エ 多様な生徒がいるため、一斉授業以上に臨機応変に対応しなければならない | 55 |
| オ 課題はない | 1 |
| カ その他 | 6 |
| 「指導力」というよりは、ファシリテーション力が重要と考える(山形) | |
| 「協働的な学び」に取り組む姿勢・教員間の温度差(福井) | |
| 教員の不足やコーディネーターの活用など(兵庫) | |
| 教員が多忙であること(香川) | |
| 教員のコーディネート力(愛媛) | |
| 共同的な学びを進めるうえで、生徒の特性の把握が必要(大分) | |

<考 察>

「協働的な学び」を取り組む上での課題については、「ア 教員の指導力」が91校と圧倒的に多く、次いで「エ 多様な生徒がいるため、一斉授業以上に臨機応変に対応しなければならない」55校、「ウ クラス内での人間関係の構築」40校であった。

ほとんどの学校が「ア 教員の指導力」を回答しており、「協働的な学び」を充実していくためには、教員の果たすべき役割が重要だと考えていることが分かる。

5 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の効果的な組み合わせについて

問18 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けての取組状況等についてお答えください。

| (1) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の組み合わせによる、探究的学習や体験的活動への取組状況 | |
|---|----|
| ア よくできている | 4 |
| イ ある程度できている | 57 |
| ウ あまりできていない | 35 |
| エ 全くできていない | 3 |
| オ わからない | 1 |

| (2) 生徒同士、あるいは多様な他者と協働することでの教育的効果の達成状況 | |
|---------------------------------------|----|
| ア とても教育的効果がある | 37 |
| イ ある程度教育的効果がある | 60 |
| ウ あまり教育効果がない | 2 |
| エ 全く教育的効果がない | 0 |
| オ わからない | 1 |

| (3) 集団の中で個が埋没してしまうことのないよう、一人一人のよい点や可能性を生かすことへの取組状況 | |
|--|----|
| ア よくできている | 1 |
| イ ある程度できている | 62 |
| ウ あまりできていない | 34 |
| エ 全くできていない | 1 |
| オ わからない | 2 |

<考 察>

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けての取組状況については、(1) 探究的学習・体験的活動では、「イ ある程度できている」57校、「ウ あまりできていない」35校、「ア よくできている」4校、(3) 一人一人のよい点や可能性を生かすことでは、「イ ある程度できている」62校、「ウ あまりできていない」34校、「ア よくできている」1校であった。(2) 他者と協働することでは、「イ ある程度教育的効果がある」60校、「ア とても教育的効果がある」37校で、合計97校であった。

探究的学習・体験的活動や一人一人のよい点や可能性を生かすことについては、概ねできていると半数以上の学校が回答しており、今後更なる取組が期待される。また、他者と協働することは概ね教育的効果があると、大部分の学校が回答している。

問19 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、授業づくりに必要なものは何ですか。(必要度の高いものを2つまで選択可)

| | |
|----------------------------|----|
| ア 教員対象研修の開催や研修の講師に適した人材の紹介 | 52 |
| イ 少人数授業等を実施するための教員配置(増員) | 76 |
| ウ ICT機器整備のための予算措置 | 20 |
| エ 家庭学習定着のための保護者の協力 | 5 |
| オ 地域や企業と連携するための支援 | 46 |

<考 察>

授業づくりに必要なものについては、多い順に「イ 少人数授業等を実施するための教員配置」76校、「ア 教員対象研修の開催や研修の講師に適した人材の紹介」52校、「オ 地域や企業と連携するための支援」46校、「ウ ICT機器整備のための予算措置」20校であった。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業づくりには、人的支援や財政的支援等による教育環境の整備が重要だと分かる。

問20 「個別最適な学び」との関係性において、「協働的な学び」を実施する効果的なタイミングはいつか、お答えください。

| | |
|-------------------------|----|
| ア 個別学習後すぐ | 5 |
| イ 個別学習とは別の時間(まとめ等をしてから) | 30 |
| ウ 履修科目や指導単元等により可変 | 64 |
| エ その他 | 1 |
| あらゆる場面で(京都) | |

<考 察>

「協働的な学び」を実施する効果的なタイミングについては、多い順に「ウ 履修科目や指導単元等により可変」64校、「イ 個別学習とは別の時間」30校であった。

また、「ア 個別学習後すぐ」5校であり、少数であった。

問21 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、課題は何ですか。
(複数選択可)

| | |
|--|----|
| ア 教員の仕事量の負担 | 89 |
| イ 生徒の学習意欲の低下 | 12 |
| ウ 生徒の多様化(特別支援教育を受ける生徒や外国人生徒等の増加、貧困、いじめの重大事態や不登校生徒の増加等) | 35 |
| エ 学習場面におけるデジタルデバイスの活用が低調であることや、加速度的に進展する情報化への対応の遅れ | 30 |
| オ 新型コロナウイルス感染症の感染防止策と学校教育活動の両立、また今後起こり得る新たな感染症等への備えとしての教室環境や指導体制の整備等 | 60 |
| カ 家庭の経済状況等 | 15 |
| キ 地域や企業等との連携 | 4 |
| ク 課題はない | 1 |
| ケ その他 | 0 |

<考 察>

一体的な充実に向けての課題については、多い順に「ア 教員の仕事量の負担」89校、「オ 感染防止策と学校教育活動の両立や新たな感染症等への備えとしての教室環境や指導体制の整備等」60校、「ウ 生徒の多様化」35校であった。
大部分の学校が「ア 教員の仕事量の負担」を回答しており、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実には、教員の負担を軽減することが不可欠であることが分かる。

6 学習評価の確立に向けた取組について

問22 新学習指導要領の3観点による学習評価の進捗状況についてお答えください。

| | |
|-------------------------|----|
| ア すべての教科・科目で、評価できる状況である | 12 |
| イ 一部の教科・科目で、評価できる状況である | 14 |
| ウ 各教科・科目で、検討している状況である | 73 |
| エ まだ検討していない | 1 |

<考 察>

新学習指導要領の3観点による学習評価の進捗状況は、多い順に「ウ 各教科・科目で、検討している状況」73校、「イ 一部の教科・科目で、評価できる状況である」14校、「ア すべての教科・科目で評価できる状況である」12校であった。
「評定」を出すためのプロセスである学習評価については、学校としてどのようにしていくのかについて、「評価できる状況」にあるという学校がある一方で、「検討している」という学校が多いことが分かる。

問23 3観点による学習評価の方法として考えているものをお答えください。(複数選択可)

| (1)「知識・技能」の評価方法 | |
|-----------------------------------|----|
| ア ペーパーテスト | 99 |
| イ 観察・実験 | 54 |
| ウ 文章で説明する等、理解して知識や技能を用いる活動 | 58 |
| エ 式・グラフ・データで表現する等、理解して知識や技能を用いる活動 | 47 |
| オ 論文、課題レポート等 | 54 |
| カ プレゼンテーション・発表活動 | 48 |
| キ その他 | 0 |

| (2)「思考・判断・表現」の評価方法 | |
|-------------------------|----|
| ア ペーパーテスト | 67 |
| イ 論文、課題レポート等 | 77 |
| ウ 作品の制作や表現活動 | 71 |
| エ プレゼンテーション・発表活動 | 89 |
| オ グループ活動によるコミュニケーション・行動 | 64 |
| カ ポートフォリオ | 29 |
| キ その他 | 0 |

| (3)「主体的に取り組む態度」の評価方法 | |
|-------------------------|----|
| ア ノート | 53 |
| イ レポート・報告書 | 68 |
| ウ 授業中の発言 | 58 |
| エ 教師による行動観察 | 76 |
| オ 生徒による自己評価 | 64 |
| カ 生徒による相互評価 | 54 |
| キ プレゼンテーション・発表活動 | 63 |
| ク グループ活動によるコミュニケーション・行動 | 60 |
| ケ ポートフォリオ | 31 |
| コ その他 | 0 |

<考 察>

3観点による学習評価の方法として、(1)「知識・技能」では、「ア ペーパーテスト」99校と最も多く、(2)「思考・判断・表現」では、「エ プレゼンテーション・発表活動」89校と最も多く、(3)「主体的に取り組む態度」では、「エ 教師による行動観察」76校と最も多かった。
3観点ともに、設定したどの選択肢に対しても回答があったことから、生徒の学習活動や成果等を一つの側面から評価するのではなく、多面的・多角的に評価する必要があると考えていることが分かる。

7 新時代に対応した高等学校教育等の在り方について

問24 教科等横断的な学びを取り入れていますか。(複数選択可)

| | |
|---|----|
| ア 商業科目同士 | 36 |
| イ 商業科目と共通教科科目 | 30 |
| ウ 商業科目と総合等の科目 | 16 |
| エ 共通教科科目同士 | 6 |
| オ 共通教科科目と総合等の科目 | 7 |
| カ 取り入っていない | 42 |
| キ その他 | 9 |
| 総合的な探究の時間に取り入れている(秋田) | |
| 現在計画中(家庭科と商業科「消費者教育」、保健と商業「…検討中…」など)(福島) | |
| 現在、商業科目同士で横断的な学びについて検討中(新潟) | |
| 令和4年度から商業科＋地歴公民科、令和5年度から商業科＋英語科(鳥取) | |
| 商業科目と学校デパート等学校行事(山口) | |
| 学校行事と商業科目(香川) | |
| 検討中(高知) | |
| 学校設定科目として複数の教科担当者(商業・理科・英語・家庭)が担当する授業を設定している。(熊本) | |

<考 察>

教科等横断的な学びを取り入れている学校は、「ア 商業科目同士」36校が最も多く、次いで「イ 商業科目と共通教科科目」30校、「ウ 商業科目と総合等の科目」16校、「オ 共通教科科目と総合等の科目」7校、「エ 共通教科科目同士」6校であった。一方で、教科等横断的な学びを「カ 取り入っていない」42校であった。「キ その他」9校の中には、計画中や検討中の状況が見受けられる。

問25 「問24」で「ア」「イ」「ウ」を選択した場合、その「実施科目」「内容」をお答えください。

| 都道府県 | 実施科目 | 内容 |
|------|--------------------------|---|
| 北海道 | ビジネス英語(学設)・コミュニケーション英語 I | ビジネスの英語活用(POP広告作成) |
| 北海道 | 簿記・ビジネス基礎 | 利払い、日数計算 |
| 北海道 | マーケティング・コミュニケーション英語 | POP広告作成(販売実習会) |
| 北海道 | ビジネス基礎・現代社会 | 金融政策 |
| 北海道 | 商品開発・家庭総合 | レシピの作成 |
| 北海道 | 経済活動と法・家庭総合 | 消費者保護 |
| 青森 | 商業科目全般・総合的な探究の時間 | 起業家教育 |
| 岩手 | ビジネス基礎・簿記 | ビジネス計算 |
| 岩手 | ビジネス基礎・マーケティング | 流通チャネル |
| 山形 | ビジネス基礎・簿記 | 手形・小切手の作成など |
| 茨城 | 情報処理・数学 I | 集合、統計、命題、三角関数 |
| 茨城 | ビジネス情報・数学A | 確率 |
| 茨城 | プログラミング・数学B | 数列 |
| 群馬 | ビジネス基礎・簿記 | 代金決済 |
| 群馬 | 財務会計 I・原価計算 | 決算、財務諸表の作成 |
| 群馬 | ビジネス情報・プログラミング | ハードウェア・ソフトウェアに関する知識、 通信ネットワークに関する知識、 情報モラルとセキュリティに関する知識 |
| 山梨 | ビジネス基礎・簿記 | 財務諸表 |
| 山梨 | マーケティング・課題研究 | 市場調査等 |
| 山梨 | 商品開発・総合実践 | 企業との連携 |
| 神奈川 | 総合実践・商品開発・マーケティング | ビジネスアイデア甲子園 |
| 新潟 | マーケティング・総合的な探究の時間 | 商品開発、販売実習 |
| 富山 | 財務会計 II・ビジネス実務 | 複利計算表・減価償却表 |
| 福井 | ビジネス経済応用・現代社会 | 経済の国際化 |
| 長野 | ビジネス基礎・家庭総合 | 消費生活 |
| 長野 | 長商デパート・商業科目 | 各業務と専門科目の関係 |
| 長野 | ビジネス情報・数学 | 線形計画・基数変換 |

| 都道府県 | 実施科目 | 内容 |
|------|------------------|----------------------|
| 長野 | 課題研究・商品開発 | 商品開発を題材にした探究活動 |
| 静岡 | 課題研究・総合的な探求の時間 | 地域連携研究プロジェクト開発 |
| 愛知 | ビジネス基礎・簿記 | 手形 |
| 岐阜 | ビジネス情報・数学Ⅱ | 線形計画法 |
| 岐阜 | 管理会計・数学Ⅱ | 線形計画法 |
| 岐阜 | ビジネス基礎・現代社会 | 消費者教育・金融経済教育 |
| 岐阜 | ビジネス基礎・家庭基礎 | 消費者教育・金融経済教育 |
| 三重 | ビジネス基礎・課題研究・総合実践 | 知財力開発について |
| 滋賀 | 商品開発・課題研究 | 企業との商品開発 |
| 滋賀 | ビジネス基礎・世界史 | 貿易 |
| 滋賀 | 商品開発・科学 | 商品の素材 |
| 京都 | 商品開発・メディアデザイン | 開発商品のパッケージデザイン・POP広告 |
| 京都 | ビジネス基礎・簿記 | 代金決済 |
| 京都 | 原価計算・数学演習 | 直接原価計算(CVP分析) |
| 大阪 | 情報処理・現代の国語 | プレゼンテーション |
| 大阪 | 商品開発と流通・家庭基礎 | 商品開発 |
| 大阪 | 商品開発と流通・原価計算 | 商品開発 |
| 大阪 | 簿記・ビジネスマネジメントⅠ・Ⅱ | 会計(財務)分析 |
| 大阪 | ビジネス基礎・英語 | 英語によるプレゼンテーション |
| 兵庫 | ビジネス基礎・家庭基礎 | 消費者教育 |
| 鳥取 | ビジネス基礎・情報処理 | ビジネス計算 |
| 鳥取 | ビジネス基礎・簿記 | ビジネス計算、ビジネスと売買取引 |
| 鳥取 | ビジネス情報・数学A | 確率 |
| 鳥取 | プログラミング・数学Ⅰ | 集合 |
| 島根 | 課題研究・英語 | 英語ディベート、英語プレゼン |
| 島根 | 課題研究・家庭科 | 家庭科に係る課題研究 |
| 島根 | ビジネス基礎・簿記 | ビジネスと売買決済・小切手・手形 |
| 島根 | ビジネス基礎・現代社会 | 企業活動の基礎 |

| 都道府県 | 実施科目 | 内容 |
|------|------------------------|-----------------------|
| 島根 | ビジネス基礎・数学 I ・家庭基礎 | 金融教育 |
| 岡山 | 広告と販売促進・起業実践 | POP広告作成 |
| 岡山 | 広告と販売促進 課題研究(津商モール) | 津商モール宣伝ポスター作成 |
| 岡山 | マーケティング特別活動(津商モール) | STP分析、購買動機、販売員活動 |
| 岡山 | 情報処理・数学 I | データの分析 |
| 広島 | ビジネス基礎・共通教科 | ビジネスの視点を取り入れた学習指導 |
| 広島 | 課題研究・共通教科 | ビジネスの視点を取り入れた学習指導 |
| 広島 | 簿記・情報処理 | 財務諸表 |
| 広島 | マーケティング・総合的な探究の時間 | 販売計画 |
| 広島 | マーケティング・コミュニケーション英語 | 販売員活動 |
| 広島 | ビジネス基礎・数学A | ビジネス計算の方法 |
| 山口 | 経済活動と法・家庭科 | 金融教育 |
| 山口 | ビジネス経済・数学 | グラフ分析・統計分析 |
| 山口 | 経済活動と法・マーケティング | コンプライアンス |
| 山口 | 商品開発・経済活動と法 | 知的財産権 |
| 山口 | ビジネス経済・現代社会 | 経済と政治 |
| 山口 | 商品開発・家庭科 | 食に関する開発 |
| 山口 | 原価計算・数学 | 各種公式理解 |
| 山口 | 商品開発・芸術 | デザイン |
| 山口 | 財務会計・英語 | 英文財務諸表の理解 |
| 山口 | 商品開発・理科 | 商品分析 |
| 香川 | ビジネス基礎・簿記 | 支払い手段・取引など |
| 香川 | 広告と販売促進・販売実習 | 販売商品の広告作成等 |
| 徳島 | ビジネス基礎・簿記 | 代金決済 |
| 愛媛 | ビジネス基礎・電子商取引 | インターネットショッピングバーチャルストア |
| 愛媛 | 簿記・総合実践 | 当座取引の処理方法と小切手の作成 |
| 愛媛 | マーケティング・広告と販売促進 | 販売実習、松商デパート |

| 都道府県 | 実施科目 | 内容 |
|------|----------------------------|--------------------|
| 愛媛 | ビジネス経済応用・政治経済 | SDGsに向けた取組 |
| 愛媛 | ビジネス経済・現代社会 | GDP、需要と供給 |
| 愛媛 | ビジネス情報・地理 | ファンチャート |
| 愛媛 | マーケティング・家庭科 | 企業の社会的責任 |
| 愛媛 | マーケティング・原価計算 | 損益分岐点分析 |
| 愛媛 | マーケティング・ビジネス情報 | SWOT分析 |
| 福岡 | ビジネス経済・現代社会 | 需要と供給 |
| 福岡 | ビジネス基礎・家庭総合 | 金融教育 |
| 福岡 | ビジネス経済・現代社会 | 需要と供給、独占と寡占 |
| 佐賀 | 社会と情報 | 文書作成、表計算、プレゼンテーション |
| 佐賀 | 総合的な探究 | 地域貢献、職業理解 |
| 宮崎 | ビジネス実務・数学B | ビジネス計算 |
| 宮崎 | マーケティング・英語表現Ⅱ | 商品計画と国際交流 |
| 宮崎 | マーケティング・総合的な探究の時間 | 価格戦略・立地戦略 |
| 宮崎 | マーケティング・情報処理 | 販売予測 |
| 鹿児島 | 簿記・ビジネス情報 | 財務関数 |
| 鹿児島 | ビジネス基礎・英語 | ビジネスコミュニケーション |
| 鹿児島 | 総合実践・課題研究 | 地域協働学習での横断的な学び・連携 |
| 沖縄 | マーケティング・家庭総合 | 消費者行動 |
| 沖縄 | 情報処理・数学Ⅰ | データ分析 |
| 沖縄 | 総合実践・国語表現 | 論理構成 |
| 沖縄 | 課題研究・芸術(美術・音楽) | 作品制作 |
| 沖縄 | 総合実践・ビジネス経済 | 商品開発 |
| 沖縄 | 広告と販売促進・原価計算 | 商品開発 |
| 沖縄 | ビジネス基礎・ 郷土の理解(学校設定科目社会) | 地域理解 |
| 沖縄 | マーケティング・家庭総合 | 消費者行動 |
| 沖縄 | 情報処理・数学Ⅰ | データの分析 |
| 沖縄 | 課題研究・郷土の音楽 | 作品制作 |

| 都道府県 | 実施科目 | 内容 |
|------|--------------------|--------------------|
| 沖縄 | 観光産業理解・英語表現 | スピーチ、プレゼンテーション |
| 沖縄 | 総合実践・国語表現 | 論理の構成や描写の仕方 |
| 沖縄 | ビジネス経済・総合実践 | 観光商品開発 |
| 沖縄 | 広告と販売促進・原価計算・総合実践 | 商品開発 |
| 沖縄 | 電子商取引・マーケティング・総合実践 | 具商デパートにおける作品制作及び広告 |

<考 察>

商業科目における教科等横断的な学びの実施科目は、多い順に「ビジネス基礎」29校、「マーケティング」19校、「簿記」15校であった。商業科目同士では「ビジネス基礎」と「簿記」の組合せが最も多く11校であった。商業科目と組合せる共通教科としては、「数学」17校、「家庭」14校、「地歴・公民」12校などさまざまである。
内容については、商品開発に関するものなど多様であることが分かる。

問26 学校の存在意義や期待される社会的役割、目指すべき学校像を明確化する形で「スクール・ミッション」の再定義が求められていますが、進捗状況はどのようになっていますか。

| | |
|-----------------|----|
| ア すでに再定義が終わっている | 31 |
| イ 現在検討している | 45 |
| ウ 今後検討予定である | 22 |
| エ 検討の予定はない | 2 |

<考 察>

「スクール・ミッション」の再定義の進捗状況は、「イ 現在検討している」45校と最も多く、次いで「ア すでに再定義が終わっている」31校、「ウ 今後検討予定である」22校であった。
3割程度の学校で再定義が終わっているが、多くの学校が、検討中もしくは、検討予定の状況にあることが分かる。

問27 「スクール・ミッション」に基づき、「育成を目指す資質・能力に関する方針」(グラデュエーション・ポリシー)、「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)、「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)の3つの「スクール・ポリシー」を策定・公表することとなりましたが、進捗状況はいかがですか。

| | |
|-----------------------------------|----|
| ア すべて策定済 | 22 |
| イ グラデュエーション・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを策定済 | 0 |
| ウ グラデュエーション・ポリシーとアドミッション・ポリシーを策定済 | 2 |
| エ カリキュラム・ポリシーとアドミッション・ポリシーを策定済 | 4 |

| | |
|----------------------|----|
| オ グラデュエーション・ポリシーを策定済 | 2 |
| カ カリキュラム・ポリシーを策定済 | 0 |
| キ アドミッション・ポリシーを策定済 | 3 |
| ク 現在検討している | 46 |
| ケ 今後検討する予定である | 19 |
| コ 検討の予定はない | 2 |

<考 察>

3つの「スクール・ポリシー」の策定進捗状況は、「ク 現在検討している」46校と圧倒的に多くなっており、次いで「ア すべて策定済」22校、「ケ 今後検討する予定である」19校であった。1つまたは2つのポリシーを策定済の学校もある。約半数以上の学校で「スクール・ポリシー」の検討が行われているか、検討を予定している状況が分かる。

問28 各学校や地域の実情に応じ、コンソーシアム(協議会・共同体)という形も含めて関係機関との連携・協働をコーディネートする体制が存在または構築できていますか。

| | |
|-------------|----|
| ア 既に構築できている | 31 |
| イ 構築中である | 23 |
| ウ 検討している | 40 |
| エ 構築する予定がない | 6 |

<考 察>

関係機関との連携・協働をコーディネートする体制の存在または構築は、「ウ 検討している」40校と最も多く、次いで「ア 既に構築できている」31校、「イ 構築中である」23校であった。「エ 構築する予定がない」6校であったことから、今後、多くの学校で、学校や地域の実情に応じ、関係機関との連携・協働をコーディネートする体制が構築されていくことが推察できる。

[Ⅱ] オンラインを活用した教育活動について

1 ICT環境の整備状況について

問29 どのようなICT機器が導入されていますか。(今後の導入計画も含む。)(複数選択可)

| | |
|-----------|----|
| (1)端末 | |
| ア ノートPC | 50 |
| イ タブレット | 88 |
| ウ スマートフォン | 21 |

| (2) 上記端末のOS | |
|----------------|----|
| ア Windows | 68 |
| イ Chrome | 48 |
| ウ iPadOS/iOS | 40 |
| エ その他 | 2 |
| Android(青森・山梨) | |

| (3) 周辺機器 | |
|---------------------|----|
| ア 無線LAN | 98 |
| イ プロジェクタ | 92 |
| ウ 書画カメラ | 72 |
| エ 電子黒板 | 61 |
| オ 3Dプリンタ | 15 |
| カ 充電保管庫 | 65 |
| キ デジタルカメラ | 58 |
| ク ドローン | 20 |
| ケ その他 | 2 |
| 大型モニタ(全教室配備)(山口) | |
| ビデオカメラ、電話対応練習機器(香川) | |

< 考 察 >

ICT機器の導入については、「イ タブレット」が88校と最も多く、次いで「ア ノートPC」50校、「ウ スマートフォン」21校であった。また、端末のOSは、「ア Windows」が68校と最も多かったものの、「イ Chrome」48校、「ウ iPadOS/iOS」40校となり、「Windows」以外のOSを導入している学校も多く見られた。周辺機器に関しては、「ア 無線LAN」98校、「イ プロジェクタ」92校、「ウ 書画カメラ」72校、「カ 充電保管庫」65校、「エ 電子黒板」61校、「キ デジタルカメラ」58校となっており、多様な教育場面に対応していくために、複数の周辺機器を導入する形でICT環境の整備が行われている状況が分かる。

問30 生徒が校内で使用できるWi-Fiの環境についてお答えください。

| | |
|----------------------------------|----|
| ア いつでも自由に使用できる環境にしている | 38 |
| イ 使用する時間帯によって制限をかけている | 9 |
| ウ 閲覧するサイトによって制限をかけている | 34 |
| エ 校内で使用できる環境はない | 10 |
| オ その他 | 8 |
| 授業でのみ使用している(青森) | |
| 授業で利用する場合のみ接続を許可している(岩手) | |
| 個人所有のPC等は使用不可、配布タブレットは使用可(秋田) | |
| 教科担当者が許可した時、いつでも使用できる環境にしている(山形) | |
| 検討中(石川・三重) | |
| 現在、構築中(大阪) | |
| 来年度以降使用できる環境を整備する(島根) | |

<考 察>

校内のWi-Fi環境については、「エ 校内で使用できる環境はない」が10校であることから、多くの学校でWi-Fi環境が整備されつつあることが分かる。また、利用条件に関しては、「ア いつでも自由に使用できる環境にしている」が38校である反面、「ウ 閲覧するサイトによって制限をかけている」34校、「イ 使用する時間帯によって制限をかけている」9校となり、「オ その他」の記述も含め、校内において利用制限をかけている学校が多いことも分かる。

2 ICTを活用した授業について

問31 ICTを活用した授業を行うメリットはどれですか。(3つ以内で回答)

| | |
|---------------|----|
| ア 授業時間の有効活用 | 47 |
| イ 動画の視聴 | 22 |
| ウ 視覚化による理解の促進 | 72 |
| エ 適時適切な資料の提示 | 31 |
| オ 板書時間の節約 | 30 |
| カ 学習状況の把握 | 7 |
| キ 学習内容の記録 | 8 |
| ク 意見の発表や集約 | 21 |
| ケ 時間と場所の超越 | 8 |

| | |
|-------------------|----|
| コ 興味・関心の高揚 | 26 |
| サ 豊富なコンテンツの利活用 | 21 |
| シ 出席状況の把握 | 0 |
| ス 外部人材の活用 | 4 |
| セ その他 | 1 |
| 協働的、効果的な授業の実現(三重) | |

<考 察>

ICTを活用した授業を行うメリットについては、多い順に「ウ 視覚化による理解の促進」72校、「ア 授業時間の有効活用」47校、「エ 適時適切な資料の提示」31校、「オ 板書時間の節約」30校であった。このことから、学習内容の理解を深めるために参考となる画像や動画、学習の要点などを適時適切に電子黒板や情報端末へ提示するなど、ICTを活用した視覚的かつ効率的な指導が行われていることが分かる。なお、「カ 学習状況の把握」や「キ 学習内容の記録」を選択する学校は1割に満たなかった。

問32 ICTを活用した教育を推進するために課題となることはどれですか。(3つ以内で回答)

| | |
|----------------------|----|
| ア 予算 | 38 |
| イ クラウドの利用制限等の規制 | 10 |
| ウ ICT活用のスキル | 71 |
| エ 授業準備の労力 | 47 |
| オ 予期せぬトラブル | 33 |
| カ 通信状態の不良(遅い、途切れるなど) | 39 |
| キ 機器の保守・管理 | 30 |
| ク 個人情報等の管理 | 20 |
| ケ 外部との調整 | 0 |
| コ その他 | 0 |

<考 察>

ICTを活用した教育を推進するための課題については、多い順に「ウ ICT活用のスキル」71校、「エ 授業準備の労力」47校、「カ 通信状態の不良(遅い、途切れ)」39校、「ア 予算」38校、「オ 予期せぬトラブル」33校であった。特に、「ウ ICT活用のスキル」を課題とした学校が71校に及ぶことから、今後もICTの活用法に関する研修等の一層の充実が求められることが分かる。

3 オンラインを活用した授業について(リモート授業を除く)

問33 オンラインを活用した授業や交流は、今年度どの程度の頻度で実施していますか。
(対面授業での使用も含む。)

| | |
|--------|----|
| ア 実施なし | 15 |
| イ 年に数回 | 41 |
| ウ 月に数回 | 26 |
| エ 概ね毎週 | 10 |
| オ 概ね毎日 | 7 |

<考 察>

オンラインを活用した授業や交流については、「ア 実施なし」が15校であることから、多くの学校で実施していることが分かるが、頻度に関しては、「イ 年に数回」が41校と最も多く、次いで「ウ 月に数回」28校、「エ 概ね毎週」10校、「オ 概ね毎日」7校となっており、少ないことが分かる。

問34 オンラインを活用した授業等の実施上の課題についてお答えください。(複数選択可)

| | |
|---|----|
| ア 機器の台数 | 34 |
| イ 機器の性能 | 29 |
| ウ 操作の習熟 | 59 |
| エ ネットワーク容量 | 49 |
| オ ネットワークの接続場所 | 38 |
| カ その他 | 7 |
| 教員のスキル向上(青森) | |
| 各家庭のネットワーク環境の整備(秋田) | |
| Web会議システムの互換性(Zoom、Microsoft Teams、Google Meet、V-CUBE ミーティング)(群馬) | |
| 生徒側のネットワーク環境(福井) | |
| 残念ながら、設備が整っていない。オンデマンドが精一杯である。(大阪) | |
| 出席確認(奈良) | |
| 時間帯の調整(岡山) | |

<考 察>

オンラインを活用した授業等の実施上の課題については、「ウ 操作の習熟」が59校と最も多く、次いで「エ ネットワーク容量」49校、「オ ネットワークの接続場所」38校であった。また、「ア 機器の台数」が34校、「イ 機器の性能」が29校であることから、オンライン授業等に関するスキルの向上とともに、ネットワーク環境と機器の整備が求められることが分かる。

4 リモート授業の実施について

問35 リモート授業について、「当てはまるもの」と「当てはまらないもの」をお答えください。
(それぞれ3つ以内で回答)

| | 当てはまる | 当てはまらない |
|--|-------|---------|
| ア 生徒の表情が見え難いので、反応がわからない | 73 | 7 |
| イ 1単位時間(授業1コマ)の生徒の集中力が続かない | 34 | 21 |
| ウ 生徒同士の意見交換がしにくいので、学びが広がったり深まったりしない | 35 | 21 |
| エ 機器のレスポンスに時間がかかるのでテンポが悪い | 20 | 15 |
| オ 高校生に対して学校で行う授業の代替とはならない | 13 | 29 |
| カ 対面授業と同程度の学習効果が期待できる | 4 | 67 |
| キ 対面授業と組み合わせることで一定の学習効果が得られる | 50 | 5 |
| ク 授業時数の不足を補うことができる | 27 | 20 |
| ケ 生徒が自主的に学習する機会が広がった | 12 | 31 |
| コ ビデオ会議システムの機能(スタンプ等)を有効に使うことで生徒の反応を把握しやすい | 3 | 17 |
| サ ビデオ会議システムの機能を有効に使うことで生徒の意見は反応を共有しやすい | 6 | 9 |

<考 察>

リモート授業について、「当てはまるもの」では、「ア 生徒の表情が見え難いので、反応がわからない」が73校と最も多く、次いで「キ 対面授業と組み合わせることで一定の学習効果が得られる」50校、「ウ 生徒同士の意見交換がしにくいので、学びが広がったり深まったりしない」35校であった。また、「当てはまらない」では、「カ 対面授業と同程度の学習効果が期待できる」が67校と最も多く、次いで「ケ 生徒が自主的に学習する機会が広がった」31校であった。このことから、リモート授業は、生徒の表情が見え難いために反応がわからないことや、生徒同士の意見交換がしにくいために対面授業と同程度の学習効果が得にくいことなどもあり、生徒の自主的な学習機会の広がりにはつながらないと捉える学校は少なくないことが分かる。

[Ⅲ] ICT活用に向けた教師の資質・能力の向上について

問36 ICT活用の推進が教員に共有されていますか。

| | |
|-------------|----|
| ア 共有されている | 40 |
| イ ある程度されている | 55 |
| ウ あまりされていない | 5 |
| エ されていない | 0 |

<考 察>

ICT活用の推進が教員に共有されているかについては、「イ ある程度されている」55校、「ア 共有されている」40校と、肯定的な回答が95校であったことから、概ねICT活用の推進が教員間で共有されていることが分かる。

問37 今年度の教員によるICT機器の活用状況・活用能力について、概ねすべての教員が行っているものをお答えください。(複数選択可)

| | |
|----------------------------------|----|
| ア 授業中に自作の教材提示を目的に使用している | 75 |
| イ 授業中にインターネット上のコンテンツを提示している | 45 |
| ウ 授業中に生徒にICT機器を使用させている | 44 |
| エ 同時双方向のリモート授業を行っている | 14 |
| オ ビデオ教材を作成してオンラインを利用して生徒に活用させている | 6 |
| カ 課題の提示や回収、アンケート等の提示や回収に使用している | 39 |

<考 察>

ICT機器の活用状況・活用能力について、概ねすべての教員が行っているものは、「ア 授業中に自作の教材提示を目的に使用している」が75校と最も多い。次いで「イ 授業中にインターネット上のコンテンツを提示している」45校、「ウ 授業中に生徒にICT機器を使用させている」44校、「カ 課題の提示や回収、アンケート等の提示や回収に使用している」39校の順であるが、いずれも半数を下回っている。また、「エ 同時双方向のリモート授業を行っている」14校、「オ ビデオ教材を作成してオンラインを利用して生徒に活用させている」6校という結果から、ICT機器の活用状況・活用能力に偏りがあることが分かる。

問38 ICTを活用した授業(リモート授業を除く)について、該当するものをお答えください。
(複数選択可)

| (1)教員に求められる資質・能力 | |
|----------------------------------|----|
| ア タブレット端末や電子黒板等の操作法に関する知識と技能 | 63 |
| イ タブレット端末や電子黒板等を効果的に使う知識と技能 | 77 |
| ウ 生徒一人一人の反応を踏まえた双方向型の授業に関する知識と技能 | 48 |
| エ 生徒が同時に別々の内容を学習することに関する知識と技能 | 39 |
| オ 生徒一人一人の考えの共有やお互いの意見交換に関する知識と技能 | 43 |
| カ ICTを活用した授業の展開に関する知識と技能 | 66 |
| キ ICTを活用した授業のコンテンツ作成や収集に関する知識と技能 | 60 |

| (2)現在の教員に不足している資質・能力 | |
|----------------------------------|----|
| ア タブレット端末や電子黒板等の操作法に関する知識と技能 | 30 |
| イ タブレット端末や電子黒板等を効果的に使う知識と技能 | 58 |
| ウ 生徒一人一人の反応を踏まえた双方向型の授業に関する知識と技能 | 58 |
| エ 生徒が同時に別々の内容を学習することに関する知識と技能 | 43 |
| オ 生徒一人一人の考えの共有やお互いの意見交換に関する知識と技能 | 42 |
| カ ICTを活用した授業の展開に関する知識と技能 | 48 |
| キ ICTを活用した授業のコンテンツ作成や収集に関する知識と技能 | 43 |

| (3)緊急に育成すべき資質・能力 | |
|----------------------------------|----|
| ア タブレット端末や電子黒板等の操作法に関する知識と技能 | 34 |
| イ タブレット端末や電子黒板等を効果的に使う知識と技能 | 52 |
| ウ 生徒一人一人の反応を踏まえた双方向型の授業に関する知識と技能 | 35 |
| エ 生徒が同時に別々の内容を学習することに関する知識と技能 | 21 |
| オ 生徒一人一人の考えの共有やお互いの意見交換に関する知識と技能 | 26 |
| カ ICTを活用した授業の展開に関する知識と技能 | 51 |
| キ ICTを活用した授業のコンテンツ作成や収集に関する知識と技能 | 40 |

<考 察>

ICTを活用した授業を実施する上で、(1)教員に求められる資質・能力では、「イ タブレット端末や電子黒板等を効果的に使う知識と技能」が77校と最も多く、次いで「カ ICTを活用した授業の展開に関する知識と技能」66校であった。また、(2)現在の教員に不足している資質・能力では、「イ タブレット端末や電子黒板等を効果的に使う知識と技能」と「ウ 生徒一人一人の反応を踏まえた双方向型の授業に関する知識と技能」がともに58校と最も多く、(3)緊急に育成すべき資質・能力では、「イ タブレット端末や電子黒板等を効果的に使う知識と技能」が52校と最も多く、次いで「カ ICTを活用した授業の展開に関する知識と技能」51校であった。このことから、「イ タブレット端末や電子黒板等を効果的に使う知識と技能」が最も求められる資質・能力であるものの、未だ十分に身に付いていない状況であることが分かる。

問39 リモート授業を実施する場合について、該当するものをお答えください。(複数選択可)

| (1) 教員に求められる資質・能力 | |
|-------------------------------------|----|
| ア タブレット端末やビデオ会議システム等の操作法に関する知識と技能 | 61 |
| イ タブレット端末やビデオ会議システム等を効果的に使う知識と技能 | 71 |
| ウ 生徒一人一人の反応を踏まえた双方向型の授業に関する知識と技能 | 61 |
| エ 生徒が同時に別々の内容を学習することに関する知識と技能 | 33 |
| オ 生徒一人一人の考えのリアルタイムな共有や意見交換に関する知識と技能 | 46 |
| カ ICTを活用した授業の展開に関する知識と技能 | 63 |
| キ ICTを活用した授業のコンテンツ作成や収集に関する知識と技能 | 52 |

| (2) 現在の教員に不足している資質・能力 | |
|-------------------------------------|----|
| ア タブレット端末やビデオ会議システム等の操作法に関する知識と技能 | 34 |
| イ タブレット端末やビデオ会議システム等を効果的に使う知識と技能 | 62 |
| ウ 生徒一人一人の反応を踏まえた双方向型の授業に関する知識と技能 | 58 |
| エ 生徒が同時に別々の内容を学習することに関する知識と技能 | 40 |
| オ 生徒一人一人の考えのリアルタイムな共有や意見交換に関する知識と技能 | 45 |
| カ ICTを活用した授業の展開に関する知識と技能 | 45 |
| キ ICTを活用した授業のコンテンツ作成や収集に関する知識と技能 | 42 |

| (3) 緊急に育成すべき資質・能力 | |
|-------------------------------------|----|
| ア タブレット端末やビデオ会議システム等の操作法に関する知識と技能 | 43 |
| イ タブレット端末やビデオ会議システム等を効果的に使う知識と技能 | 43 |
| ウ 生徒一人一人の反応を踏まえた双方向型の授業に関する知識と技能 | 51 |
| エ 生徒が同時に別々の内容を学習することに関する知識と技能 | 23 |
| オ 生徒一人一人の考えのリアルタイムな共有や意見交換に関する知識と技能 | 31 |
| カ ICTを活用した授業の展開に関する知識と技能 | 38 |
| キ ICTを活用した授業のコンテンツ作成や収集に関する知識と技能 | 36 |

<考 察>

リモート授業を実施する上で、(1)教員に求められる資質・能力では、「イ タブレット端末やビデオ会議システム等を効果的に使う知識と技能」が71校と最も多く、次いで「カ ICTを活用した授業の展開に関する知識と技能」63校であった。また、(2)現在の教員に不足している資質・能力でも、「イ タブレット端末やビデオ会議システム等を効果的に使う知識と技能」が62校と最も多く、次いで「ウ 生徒一人一人の反応を踏まえた双方向型の授業に関する知識と技能」が58校であった。そして、(3)緊急に育成すべき資質・能力では、「ウ 生徒一人一人の反応を踏まえた双方向型の授業に関する知識と技能」が51校と最も多く、次いで「ア タブレット端末やビデオ会議システム等の操作法に関する知識と技能」と「イ タブレット端末やビデオ会議システム等を効果的に使う知識と技能」が、ともに43校であった。

タブレット端末やビデオ会議システム等を効果的に使う知識と技能は、教育に求められる資質・能力であり、教員に不足している資質・能力でもあることから、リモート学習には欠かせない資質・能力であることが分かる。

問40 今年度実施が計画されている各種の教員研修(学校・教育センター等)において、必要な資質・能力を育成できますか。

| | |
|-----------------|----|
| ア そう思う | 30 |
| イ どちらかというと思う | 57 |
| ウ どちらかというとは思わない | 13 |
| エ そうは思わない | 0 |

<考 察>

教員研修により必要な資質・能力の育成ができるかについては、「イ どちらかというと思う」が57校と最も多く、次いで「ア そう思う」が30校となり、各種の教員研修を通して、必要な資質・能力の育成が図られていることが分かる。

おわりに

今回、商業教育対策委員会から各都道府県の連絡理事校を通じて、全日制商業関係学科を設置する100校に、「ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの推進上の課題—全ての生徒たちの可能性を引き出す魅力ある商業教育の実現に向けて—」のアンケートによる調査を依頼しました。大変お忙しいところ、アンケートに回答いただいた校長先生方には、深く感謝申し上げます。

前回のアンケート「新学習指導要領に基づく教育課程の実施に向けた諸課題—Society5.0時代の新しい商業教育の実現のために—」では、新しい教育課程の編成や実施上の課題の洗い出しと、その課題解決に向けたICTの有効活用の状況とその後の方向性について、アンケート集計を通じて詳らかにいたしました。

このアンケート集計も踏まえながら、現在（令和4年1月）、各校においては、令和4年4月から年次進行で実施される新学習指導要領に基づく新しい教育課程の実施に向けて、特に観点別学習状況の評価の策定を進めているところではないかと推察いたします。

今回は、この前回アンケートの後継として、新しい教育課程を実施していく上で求められる「個別最適な学び」と「協働的な学び」について「ICTの活用」と絡めながら、それらの推進上の課題を詳らかにしています。

ここで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の定義について共通理解を図りたいと存じます。

中央教育審議会（令和3年1月26日）「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）によれば、「個別最適な学び」とは、『子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じて、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行う、教師による「指導の個別化」によって、子供が自身の学習が最適となるよう調整する「学習の個性化」を導き出す概念のこと。ICTの活用により、子供が自ら見通しを立てたり、学習の状況を把握し新たな学習方法を見いだしたり、自ら学び直しや発展的な学習を行いやすくなったりする等の効果が生まれることが期待される。』です（筆者による要点抜粋）。同じく、「協働的な学び」とは、『探究的な学習や体験活動などを通じて、子供同士や地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越えて持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する概念のこと。ICTの活用により、多様な意見を共有しつつ合意形成を図ったり、空間的・時間的制約を緩和することによって交流を深めたりすることが重要である。』です（筆者による要点抜粋）。

両者の定義の中には、「ICTの活用により」（定義の該当箇所に筆者による下線追加）という共通の言葉が記されています。これは、それぞれの効果的な実施にはICTの活用が有効であり、ICTの活用によって両者の有機的な連携が生まれてくるものであると、筆者は受け止めています。

新学習指導要領では、知識伝達型の授業に加えて、「主体的・対話的で深い学び」という学習者中心の授業が求められています。この「主体的・対話的で深い学び」が行われる授業では、『教師による「指導の個別化」によって、子供が自身の学習が最適になるよう調整する「学習の個性化」を導き出す』

「個別最適な学び」と、『子供同士や地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越えて持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する』「協働的な学び」がその両輪として行われることとなります。その両輪の結節点が、「ICTの活用」となるわけです。今回のアンケート集計が、この両輪を円滑に廻す原動力の一助となれば幸いです。

本部提案テーマ年度別一覧

| | |
|----------|---|
| 昭和60年 5月 | 理産審産業教育分科会「審議のまとめ」と「答申」の対比について |
| 昭和60年10月 | 理産審産業教育分科会「答申」に関連した各県の商業教育の取り組み状況 |
| 昭和61年 5月 | 企業側からみた商業高校卒業者の受け入れ傾向について —アンケート調査に基づいて— |
| 昭和61年10月 | 就職状況の変化に対応する進路指導対策について —アンケート調査に基づいて— |
| 昭和62年 5月 | 商業科に関する新しい小学科の設置状況について |
| 昭和62年10月 | 生徒の急減期における商業高校としての対応 |
| 昭和63年 5月 | 教育課程審議会の答申をふまえた商業教育の展望 —アンケート調査に基づいて— |
| 昭和63年10月 | 将来展望にたった商業教育のあり方—アンケート調査に基づいて— |
| 平成元年 5月 | 時代の変化に対応する商業教育の展望 —新学習指導要領に基づく教育課程の編成例— |
| 平成元年10月 | 高等学校学習指導要領の実施にむけて —教科「商業」にかかわる一問一答集— |
| 平成2年 5月 | 問題解決能力や創造性の育成をめざす商業教育の具体的展開 —課題研究」の研究と実践の推進— |
| 平成2年10月 | 高等学校移行措置を生かした商業教育のあり方 —新学習指導要領の取り扱いと学校における対応— |
| 平成3年 5月 | 21世紀を拓く商業教育—そのあり方を求めて— |
| 平成3年10月 | 21世紀を拓く商業教育—その具体化にむけて— |
| 平成4年 5月 | 生徒の個性を伸ばす商業教育—新たな創造を目指して— |
| 平成4年10月 | 新学習指導要領の趣旨を生かす教育課程の編成 |
| 平成5年 5月 | 商業教育に関する「聴取り調査」報告 |
| 平成5年10月 | 商業に関する学科の特色化・個性化について —教育課程を中心として— |
| 平成6年 5月 | 進路の多様化に対応する商業教育—大学進学— |
| 平成6年10月 | 進路の多様化に対応する商業教育 —専攻科及び高等専門学校の構想— |
| 平成7年 5月 | 進路の多様化に対応する商業教育—就職指導— |
| 平成7年10月 | 高等学校教育の改革—現状と商業高校の課題— |
| 平成8年 5月 | 社会の進展と商業教育の充実 —これから求められる専門教育の育成— |
| 平成8年10月 | 社会の進展と商業教育の充実 —商業教育における基礎・基本の内容をさぐる— |
| 平成9年 5月 | 21世紀を展望した商業教育の在り方について —「生きる力」の育成に対応するための商業教育— |
| 平成9年10月 | 21世紀を展望した商業教育の在り方について —社会の変化に対応した商業教育— |
| 平成10年 5月 | 完全学校週五日制における商業教育の在り方 —新しい情報処理教育の在り方について— |
| 平成10年10月 | 完全学校週五日制における商業教育の在り方 —地域や産業界との連携と開かれた商業教育について— |

| | |
|----------|---|
| 平成11年 5月 | 社会の変化や産業の動向等に対応した商業教育の在り方 —新学習指導要領に基づく教育課程編成上の課題— |
| 平成11年10月 | 高等学校学習指導要領の実施に向けて —教科「商業」に関する一問一答集— |
| 平成12年 5月 | 高等学校学習指導要領の実施に向けて —新学習指導要領に基づく教育課程の編成例— |
| 平成12年10月 | 就業構造や産業構造の変化に対応する就職指導のあり方 |
| 平成13年 5月 | 21世紀における商業教育—大学から見た商業教育— |
| 平成13年10月 | 21世紀における商業教育の在り方—商業高校からの大学進学— |
| 平成14年 5月 | 21世紀における商業教育の在り方—商業高校が育成する商業高校生像— |
| 平成14年10月 | 21世紀における商業教育の在り方—商業高校における学校改革— |
| 平成15年 5月 | 21世紀における商業教育の在り方—商業高校における起業家育成教育— |
| 平成15年10月 | 21世紀における商業教育の在り方 —学校・企業・地域等との連携を考える— |
| 平成16年 5月 | 全商本部提案要約集—平成元年～平成15年度— |
| 平成16年10月 | 次期学習指導要領に向けて—現行学習指導要領と教育課程(商業)— |
| 平成17年 5月 | 21世紀における商業教育の在り方—生徒の職業観・勤労観を考える— |
| 平成17年10月 | 次期学習指導要領に向けて—現行学習指導要領と教育課程(商業)Ⅱ— |
| 平成18年 5月 | 学習指導要領改訂への提言(中間まとめ) |
| 平成18年10月 | 学習指導要領改訂への提言 |
| 平成19年 5月 | 生徒の個性を伸長する学校経営のあり方について |
| 平成19年10月 | 生徒の個性を伸長する学校経営のあり方について ※ 冊子なし |
| 平成20年 5月 | これからの商業教育の実践—商業教育を担う人材の育成について— |
| 平成20年10月 | これからの商業教育の実践—商業教育を担う人材の育成について— |
| 平成21年 5月 | 新高等学校学習指導要領の実施に向けて —教科「商業」に関する一問一答集— |
| 平成21年10月 | 新高等学校学習指導要領の実施に向けて —新学習指導要領に基づく教育課程の編成例— |
| 平成22年 5月 | 新学習指導要領に基づく教育課程編成上の諸課題 |
| 平成22年10月 | 新高等学校学習指導要領と今後の商業教育 |
| 平成23年 5月 | キャリア教育の現状と課題について |
| 平成23年10月 | キャリア教育・商業教育の在り方について —生徒のよりよい進路実現を目指して— |
| 平成24年 5月 | 新高等学校学習指導要領の趣旨を生かした商業教育の推進 そのⅠ —魅力ある商業教育の発展を目指して— |
| 平成24年10月 | 新高等学校学習指導要領の趣旨を生かした商業教育の推進 そのⅡ —魅力ある商業教育の発展を目指して— ※ 冊子なし |
| 平成25年 5月 | 思考力・判断力・表現力等を伸ばす商業教育の推進 そのⅠ —商業教育の質の向上を目指して— |
| 平成25年10月 | 思考力・判断力・表現力等を伸ばす商業教育の推進 そのⅡ —商業教育の質の向上を目指して— |
| 平成26年 5月 | 全商本部提案要約集—平成16年度～平成25年度— |
| 平成26年10月 | 次期学習指導要領改訂に向けて —現行学習指導要領に基づく教育課程(商業)の実施状況と課題 そのⅠ— |

| | | | |
|-------|-----|--|---|
| 平成27年 | 5月 | 次期学習指導要領改訂に向けて —現行学習指導要領に基づく教育課程（商業）の実施状況と課題 そのⅡ— | |
| 平成27年 | 10月 | 学習指導要領改訂への提言（中間まとめ） | |
| 平成28年 | 5月 | 学習指導要領改訂への提言 | |
| 平成28年 | 10月 | 地域創生に資する商業教育の在り方について | |
| 平成29年 | 5月 | 地域創生に資する商業教育の在り方についてⅡ —一次世代の商業教育に向けて— | |
| 平成29年 | 10月 | グローバル化社会に対応した商業教育の在り方について一次世代の商業教育に向けて— | |
| 平成30年 | 5月 | グローバル化社会に対応した商業教育の在り方についてⅡ—一次世代の商業教育に向けて— | |
| 平成30年 | 10月 | 商業高校の現状とこれからの商業教育を担う人材育成 | |
| 令和 | 元年 | 5月 | 新高等学校学習指導要領の実施に向けて—教科商業科に関する一問一答集— |
| 令和 | 元年 | 10月 | 新高等学校学習指導要領の実施に向けて—新学習指導要領実施に向けた先進事例集— |
| 令和 | 2年 | 5月 | 新学習指導要領に基づく教育課程編成上の諸課題 —魅力ある商業教育を創る開かれた教育課程の編成に向けて— |
| 令和 | 2年 | 10月 | 魅力ある商業教育を創る開かれた教育課程の編成に向けて —新学習指導要領に基づく教育課程編成例— |
| 令和 | 3年 | 5月 | ※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う研究協議会中止のため本部提案なし 新学習指導要領に基づく教育課程の実施に向けた諸課題 —Society5.0時代の新しい商業教育の実現のために— |
| 令和 | 3年 | 10月 | 社会に開かれた魅力ある商業教育の実現に向けて —Society5.0時代の新しい商業教育の実践例— |

商業教育対策委員会

令和3年度

| | | |
|---------|--------|--------|
| 1. 委員長 | 武石 仁 | 県・水戸商 |
| 2. 副委員長 | 内田 靖 | 県・浦和商 |
| 4. 委員 | 西木 成男 | 県・深谷商 |
| 5. " | 山本 俊之 | 県・鹿島灘 |
| 6. " | 海老沼 正 | 県・土浦第三 |
| 7. " | 蓮實 芳守 | 県・鹿沼商工 |
| 8. " | 小林 努 | 県・高崎商 |
| 9. " | 橋本 準一 | 県・熊谷商 |
| 10. " | 常世田 信幸 | 県・一宮商 |
| 11. " | 森 豊巳 | 県・君津商 |
| 12. " | 武藤 秀樹 | 市・甲府商 |
| 13. " | 小塩 明伸 | 都・千早 |
| 14. " | 小川 孝 | 都・第五商 |
| 15. " | 石山 智典 | 都・大田桜台 |
| 16. " | 河合 俊直 | 県・平塚農商 |

令和4年度

| | | |
|---------|-------|----------|
| 1. 委員長 | 西木 成男 | 県・深谷商 |
| 2. 副委員長 | 小川 孝 | 都・葛飾商 |
| 4. 委員 | 山本 俊之 | 県・水戸商 |
| 5. " | 海老沼 正 | 県・水海道第二 |
| 6. " | 岡野 敏昌 | 県・鬼怒商 |
| 7. " | 蓮實 芳守 | 県・鹿沼商工 |
| 8. " | 根岸 卓 | 県・伊勢崎商 |
| 9. " | 内田 靖 | 県・浦和商 |
| 10. " | 野口 剛志 | 県・越谷総合技術 |
| 11. " | 鈴木 栄次 | 県・千葉商 |
| 12. " | 森 豊巳 | 県・君津商 |
| 13. " | 三枝 正人 | 市・甲府商 |
| 14. " | 平野 篤士 | 都・第一商 |
| 15. " | 石山 智典 | 都・大田桜台 |
| 16. " | 河合 俊直 | 県・平塚農商 |

ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの推進上の諸課題
— 全ての生徒たちの可能性を引き出す魅力ある商業教育の実現に向けて —

発 行 令和4年5月23日
発行編集 全国商業高等学校長協会
商業教育対策委員会
〒160-0015
東京都新宿区大京町26番地
T E L 03-3357-7911
F A X 03-3341-1039

